

「『二兎を追うものは一兎を得ず』をクリティカルに考えてみる」

おはようございます。この春からお世話になります、鈴木です。どうぞよろしく申し上げます。

本日から皆さんは、新しい年次としての学校生活が始まります。また、午後から入学式が行われ、かわいいかわいい後輩たちが入ってきます。環境が変わる今のタイミングは、これから一年、「どのような考え方を大事にして北陽高校ライフを過ごしていこうかな」と考えるチャンス。そのようなことを考えるための「足場かけ、橋渡し」となるようなスピーチをさせていただきます。

同時に違った二つの事をしようとするれば、結局どちらも成功しないというたとえを表す言葉、「二兎を追うものは一兎を得ず」です。この言葉についてどのように考えますか？私はノーに近い考えです。

今から50年以上も前、昭和の時代においては、この「一つのことを打ち込むべし」という考え方は当時の人々にあったものだったかもしれません。終身雇用、単純労働生産、とにかくバリバリ働く、そういった時代背景があったからです。

しかし、今はどうでしょうか？また、君たちが生きる未来はどうでしょうか？変化の激しい未来、様々な課題が私たちを取り囲んでいるであろう未来を生きるためには、自分にとって何が必要なのかを柔軟に、かつ、積極果敢に挑戦する必要があるのではないのでしょうか。そのように考えた時、私が皆さんに願うことは、「おおいに二兎でも三兎でも四兎でも何兎でも追え」ということです。

学びの場は、授業だけではなく、学校行事、部活動、休み時間や放課後の友人との触れ合いなど、また、学校外にも、奉仕活動や地域行事など、実に多様なのです。「〇〇だけががんばる」「〇〇を成し遂げるまで、それ以外のものは手を出さない」といった硬い考え方では、もったいないのではないのでしょうか？勉強も、部活も、行事も友達と遊ぶことも、恋愛も！一回きりの青春時代を、一色ではなく、カラフルなものにしてほしいと思います。

当然、多くのことにチャレンジするには、失敗のリスクが伴います。挑戦した上での失敗ほど貴重なものではありません。リスクを恐れず、むしろリスクを背負うことを楽しむ勢いで、いろんなことに挑戦してみてくださいいかがでしょうか？

挑戦する心を持つ人のことを、リスクテイカーと言います。どうぞ皆さんには、リスクテイカーとして、今年度、北陽高校での青春を謳歌してほしいと思います。